

様式1 令和3年度 甲府市立甲府商業高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	民主的で平和な国家社会の形成者として、心身ともに健全な個人の人格完成を目指し、かつ知・徳・体の兼ね備った近代人の育成を図る。個々の能力や個性の伸長を図り、責任を重んじ勤労を尊び、社会の進展に即応できる専門的識見と進取の態度を養う
-----------	--

甲府市立甲府商業高等学校校長 武藤 秀樹

本年度の重点目標	<p>1. 主体的な学びによる学力向上 (1)自ら学習に取り組む態度を育てます。 (2)実践的・体験的な学習活動に取り組みます。 (3)教育活動全般を通じて、商業教育を行います。 (4)高い資格を取得するための力を養います。</p> <p>2. 社会で活躍できる人づくり (1)勉学と部活動の両立を図り、心身ともに健全な人づくりを推進します。 (2)地域や企業と連携し、地域社会を活性化する活動に取り組みます。 (3)社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度を向上させる教育を実施します。 (4)就職や大学等の進学に向け、個々の進路希望に応じた指導を丁寧に行います。</p>
----------	--

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

本年度の重点目標			自己評価			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(令和4年1月31日)		
				自己評価結果	達成度	
1	主体的な学びによる学力向上	・基礎学力の定着と、主体的に学ぶ態度の養成のための指導方法の工夫や改善を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの授業を展開する。 ・観点別評価の導入に向け、各教科で評価方法を構築する。	・相互授業参観及び研究授業の実施 ・授業アンケート	・年度初めに各教科で、本校生徒の実態に即した目標・計画を立て、それに従い授業を展開できた。いずれの授業においても、内容に立脚した言語活動をとり入れることもできた。全ての生徒にわかりやすくという点では課題を残すが、概ね良好であった。 ・観点別評価については、教育課程委員会を通じて、各教科で評価方法を構築できた。次年度新入生から本格導入していく。	A	・今年度も新型コロナウイルスの影響が大きかった。様々な学校行事について、規模縮小・中止の中で授業時間を確保することに努めた。次年度も今の状況の見過がしがない中、学校全体を児童したバランスのよい教育活動の計画を立てたい。 ・観点別評価については、今年度の後半に試行することができた。次年度の新入生から実際に観点別評価を始めるにあたり、年度初めの各教科の細かな計画立案、新入生・保護者に対する授業展開や評価の方法についての説明を十分に行い、共通理解を深めたい。
		・「探究学習の時間」を用い、経済や社会に関する興味関心を高める講演会を実施し、授業への意欲を向上させる取り組みを行い、商業と実学を結び付ける。	・探究学習の実施及び記述式アンケート	・年間事業計画を立案し、探究学習の時間を実施した。業界財団から助成を受け外部人材の活用を今年度も積極的にを行い、実社会に即した講演・講習会を6回実施した。学校で学んだことも結びついていくという意識を持たせることができた。 ・山梨県の起業家を招き、グローバルな視野での行動と学びを意欲させる講演を行った。	A	・商業、経済に関する様々な講演・講習会を通して学んでいることが実社会に通じていくこと、知識を深め視野を広げていくことの大切さを学ばせることができた。さらに自らの行動を深めていくために、探究していく大切さも学ばせることができた。 ・次年度はこの効果をさらに高めるため、講師の選定、事前の打ち合わせを積極的にを行い、学びと社会を結びつけていきたい。
		・授業力向上に向けた校内研修、授業観察の充実に努める。 ・職業の授業改善への意識を高める。 ・ICT機器を活用した教育方法を研究する。	・指導案、相互授業参観による研修 ・授業アンケート	・校内研修を計画立案し、実行した。校内研修会は今年4回、相互授業参観も年3回実施した。相互授業参観の参加率も昨年比第1・2回10p、第3回25p改善した。他教科の授業参観はとも参考になることが多かったとの授業報告が寄せられており、一定の効果があった。またICTを活用している授業を紹介し、授業参観を促した。 ・第2回校内研修会のグループセッションにおいては、有効な指摘が数点出され、第4回校内研修会で検討課題になる予定である。第3回校内研修会では新入生の研修会が予定されており、ICTに関する対応を試みている。	A	・相互授業参観の参加率が向上したことは有益であった。また、グループセッションにおいても本校の問題点となりうる指摘も出され、成果が出ている。ICT活用にも対する意識も出てきており、少しずつであるが前進している。しかし、同じ反響を繰り返しているような事業も見られ、次年度はこの点に関する対策を講じていきたい。 ・外部研修の紹介も積極的に行ったが、コロナ禍により参加者は数人にとどまっているのが現状であった。この点についてはオンライン参加を含め、次年度の課題としておきたい。
2	社会で活躍できる人づくり	・全商主催検定試験1級・日簿検定1級・2級・ITパスポート・基本情報試験等の取得を勧奨する。 ・担当教員の指導技術向上を図るために研修への参加を促進する。	・各種検定合格状況	・コロナ禍ではあるが、商業科教員全員で授業を大切にしながら、各科目にある検定試験の対策も行ってきた。生徒の理解度や習熟度に応じて受験級を選択することで、生徒の意欲も例年より増していた。3年生では、検定試験を利用して進学した生徒も多くおり、3年間の商業科目の学びが進路に良い影響を与えている。 ・各種研修が中止や延期になり、先生方の対面での研修の機会が例年よりも減っているが、専門学校のオンラインを活用して上位資格の研修を数名の教員が受講している。	A	・3年生の全商検定1級合格者は1月の簿記検定試験まで182人、3冠以上が94人であり、今後情報処理と商業経済検定でさらに増加が見込まれる。日簿簿記検定においては、最上位級の1級を学習している生徒の中から検定に挑戦する生徒もおり、成績上位生徒への対応も成果を上げてきている。成績下位の生徒に対しても、放課後に単元ごとの補習などを丁寧に行いながら、全体の底上げを図っている。 ・今後の課題は、検定試験は、学習上の通過点であり、学習した内容を社会に出たら活かせる知識や技能に替えていけるよう、より実践的な学習内容を推進していきたい。
		・主体的に学習計画を立て、部・委員会活動をより活発に展開し、豊かな人間性を育成する。 ・部活動ガイドラインの遵守を図る。	・学校評価アンケート	・自ら学習計画を立て、学習と部活動を両立させることを心がけるとともに、学習活動と部活動は学生生活の両翼であり、そのどちらが欠けても好ましくないことが意識づけられた。 ・コロナ禍での部活動という制約があったが、部活動ガイドラインを遵守しながら、工夫しながら取り組むことができた。	A	・学年が上がるとともに、学習と部活動の両立ができるようになってきている。運動部に入部した1年生は体力的に厳しいこともあり、両立が難しいが、そこを乗り越えられるように、学校全体でのサポート方法も考えていきたい。 ・次年度はまだまだコロナ禍での活動となる。十分に活動時間が取れない中でどのように効率化を図るか、教員の働き方改革と併せて、部活動指導のあり方も考えていきたい。
		・金融教育指定校として金融や経済に関する実践的な学習に取り組むとともに研究紀要をまとめる。	・高度な専門教育の指導計画の作成と実施 ・アンケート	・校内に金融教育研究委員会を設立し、日程検討、情報共有を図った。公開授業を実施し5科18講座を開講した。参加者の教材に対する関心も高くおむむい評価をいただけた。 ・公開授業日に研究協議会を設け、これまでの研究過程を報告した。その際、研究成果をまとめて配布した。	A	・外部参加の方々から、副教材や研究協議会の内容に多くの関心が寄せられた。授業参観の内容にも多くの関心が寄せられこれも金融への関心の高さを引き出せたと考えている。 ・株式学習を委嘱した生徒からは、金融を学ぶ意義を強く認識する機会になったとの感想が多く寄せられており、大きな効果も上がることができた。
3	社会で活躍できる人づくり	・規範意識や社会性の高揚を図る。 ・無差別・無敵慮の基本的な生活習慣の徹底を図る。 ・出席率99%以上を目指す。	・毎日の登校指導の実施と指導の徹底 ・交通安全指導と交通事故、違反者への指導の徹底 ・基本的な生活習慣の確立と健康管理の徹底	・朝の登校指導を実施し、基本的な生活習慣の一つである時間に遅れないことや交通マナーの向上について指導を徹底した。 ・遅刻に関しては改善が図られた。 ・「交通マナーについて、注意を受ける生徒がいることから、引き続きLHRを利用して規範意識や社会性の高揚を図らなければならない。 ・出席率は概ね良好だが、進級変更する生徒や欠席が多い生徒もいるため、カンパニングマインドを持って対応することが必要であると考える。	A	・朝の遅刻に関しては、始業間際に登校する生徒が限定されており、その生徒に対して放課後や休み時間を利用して個別指導をする必要があると利用している。 ・「交通マナーについて、注意を受ける生徒がいることから、引き続きLHRを利用して規範意識や社会性の高揚を図らなければならない。 ・出席率は概ね良好だが、進級変更する生徒や欠席が多い生徒もいるため、カンパニングマインドを持って対応することが必要であると考える。
		・生徒一人一人の適性に合った指導をおこない、希望進路を100%実現させる。	・面接、小論文指導の充実 ・模擬試験の活用	・生徒一人一人に教員が一人指導を担当し、合格まで指導する。 ・小論文指導に向け、時事問題の知識の充実を図るため、『チェック＆ワーク』に取り組むこととした。その際、「自分で考えて書く」ことの指導を徹底した。 ・生徒のネット環境に配慮し、オンラインによる説明会は学校として申し込み、参加者全員で視聴、希望者が確実に参加できるように配慮した。 ・例年実施していた職場見学については、形として、企業側の来校による企業学習というスタイルで実施した。 ・「職業学習」(前期)の実施、生徒の進路選択の一助とした。(3年生は警察、消防、保育関係に参加) ・実力診断テストの活用法の説明会を開き、各自が学力の推移に関心を持ち、復習に取り組めるようにした。	A	『チェック＆ワーク』の取り組みに関しては、担当者が粘り強く指導したことで、「自分で考えて取り組む」姿勢が促されるようになった。 ・オンラインによる説明会を学校での視聴とした。このスタイルは今後も継続したい。 ・進路ガイダンス、職場見学など大きな行事に関しては、コロナ禍による様々な変更もあり、いくつかの実施パターンが蓄積されたので、今後はこうしたパターンを組み合わせ、柔軟に実施していきたい。 ・保護者からの学校評価の結果を受け、今後は保護者対象の進路説明会、特に1年生の保護者対象の説明会を実施したい。 ・進路からの通知が家庭に届いていない傾向がみられることから、配布した旨をマメルメールにより連絡したい。

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月20日)	
評価	意見・要望等
4	・先生方の生徒のためにできることをしてあげよう、という熱意が本当に伝わった。1年間だった。生徒たちの思い出も制限がある中にも関わらず、たくさんできたと思う。 ・コロナ禍の中で分散登校の中でも授業時間を確保し、生徒の学力向上に努めている。 ・オンライン授業環境の整備が望まれる。
4	・商業、経済分野の講話や講演会を積極的に実施し、実社会で通用する人材育成を行っている。 ・外部講師の活用など、開かれた学校づくりを進め、生徒の実践力を向上させる取り組みは高く評価できる。
4	・校内研修会や相互授業参観を実施することで、先生方の授業力も向上させていることや授業改善につながることも、それが生徒にとっても有効であることが理解できた。 ・先生方が研修を行うためのゆとりを生み出す工夫も必要と感ずる。
4	・休校や分散登校のため授業確保が大変な中にも関わらず、教員が授業を大切にしながら受検指導も積極的に行っていたため、前年度比で人数は減少したが、それでも数多くの1級合格者を出せたことで、目標を十分に達成したと考えられる。
4	・学業と体育局、文化局の活動が両立している。中でもソングリーダー部が全国一に輝いたことは、大きな成果を示したものと感じる。 ・高校総体の女子総合優勝、男子6位の成果も日頃の取り組みの結果と捉えられる。 ・部活動の自願により、生徒の意欲が低下しないような工夫が必要。
4	・金融教育指定校を積極的に引き受け、様々な教材や科目で指導を行うことで、生徒たちが今後の金融活動の大きな基礎力になるものと感じる。 ・投資が経済活動を活発にする一端を担うことが、生徒たちに周知できている。
4	・先生方の愛情あふれる指導の賜として、成果が上がっている。 ・遅刻者の減少や交通マナーの遵守に対して、学校一丸となり指導の徹底が図られている。
4	・就職、進学ともに試験の合格率高く、進路指導がきめ細かく実施されていることが理解できる。 ・リモートで面接試験が実施される機会が増えるなど、自宅でもオンラインで授業を受けられるような環境が今後必要になると思う。 ・公立、有名私立大への入学、県内外の優良企業への就職など、素晴らしい成果を上げている。

※※ (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。